

## 国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-13-3/5)

### 目 的

日本の紙本文化財は海外の美術館、博物館でも多く所蔵されているが、適切な保存修復を行うことのできる専門家が所属していることは少ない。また、そのような日本の紙本文化財の保存修復に関する情報や経験を得る機会が提供されていない一方で、要望は非常に多い。そうした状況において、本事業は海外の専門家に対して日本の紙本文化財についての知識や技術を伝えることを主たる目的としている。さらに、こうした技術は日本の紙本文化財のみならず海外の文化財に対しても応用可能な内容であると考えられる。

### 概 要

紙本文化財の保存修復、および修復材料として和紙を使用した文化財の保存修復に関する研修を行った。本年は昨年に引き続き国内及びメキシコにおいて研修を実施した。

#### 1. 日本国内研修(文化財保存修復研究国際センター(ICCRROM)との共催)

- ・国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
- ・場所：東京文化財研究所、その他
- ・期間：2013(平成25)年8月26日～9月13日
- ・参加者：アメリカ、アラブ首長国連邦、ドイツ、カナダ、オーストラリア、イギリス、マレーシア、スイス、ボリビア、グアテマラから1名ずつ計10名
- ・内容：日本の紙本文化財における伝統的な修復材料や道具、技術についての講義や実習、見学を行った。実習では装幀技術を用いた方法での卷子修復、製本を行った。

[講義] 早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、君嶋隆幸「書について」。

[実習、その他] 卷子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論

[スタディーツアー] 2013(平成25)年9月2日～6日実施。岐阜県美濃市(長谷川和紙工房、美濃和紙の里会館、美濃史料館、美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区)、名古屋市(紙販売店、徳川美術館)、京都市(修復材料・道具店、岡墨光堂(修復工房))

#### 2. メキシコ研修(ICCRROM及びメキシコ国立人類学歴史機関(INAH)との共催)

- ・ICCRROM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America
- ・場所：メキシコ国立人類学歴史機関(INAH)
- ・期間：2013(平成25)年10月6日～22日
- ・参加者国名：メキシコ、スペイン、ウルグアイ、ペルー、アルゼンチン、エクアドル、ブラジル、メキシコ、プエルトリコ
- ・内容：研修の前半は、装幀修理技術に用いる材料、道具、技術をテーマに、日本人講師が講義、実習を行った。研修後半では、装幀修理技術の研修経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師らが、日本の材料、道具、技術が欧米の文化財修復に実際にどのように活用されているかを紹介し、実習を行った。また、本プログラムの一環として、2013(平成25)年6月28日～10月15日の期間INAHの職員から1名を招聘し、和紙を欧米の文化財修復に応用するための基礎的な研究及び研修を行った。さらに、2014(平成26)年3月2日から別の1名を招聘し、26年度も同様の研究および研修を引き続き行っていく予定である。

### 研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、楠京子、山田祐子、川端冴子、山之上理加(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存修復科学センター)